

【全体概要】

つくば市北部地域では、イネ縞葉枯病の被害拡大に伴い、平成25年度から栽培が始まった「姫ごのみ」に着目する動きが出てきている（H28栽培面積：7ha）。そこで、当地域で有望品種となりうる「姫ごのみ」の高品質・安定生産技術を確立するとともに、実需者ニーズを明らかにして、販路の創出及び生産拡大を目指す。

新品種・新技術等の概要

●概要

低アミロース米品種「姫ごのみ」は、農業・食品産業技術総合研究機構近畿中国四国農業研究センター（現：西日本農業研究センター）で育成され、平成24年に品種登録された。

●品種特性

- ・食味は良好で冷めても美味しい
- ・短稈かつ強稈で倒伏に強い
- ・イネ縞葉枯病抵抗性を持つ



左：姫ごのみ 右：コシヒカリ

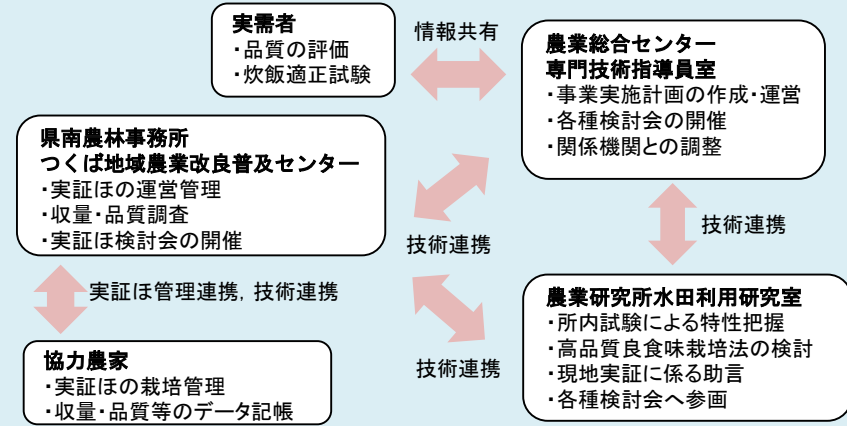
主な取組内容

- ・現地2か所と農業研究所水田利用研究室において栽培試験を実施し、品種・栽培特性を把握
- ・類似産地（香川県、福岡県）の栽培状況や販路の確保などについて調査
- ・第三者機関による食味官能評価の実施



香川県での調査

コンソーシアム候補の体制図



実績と今後の展開

●取組の実施結果

- ・試験結果に基づき「姫ごのみ」栽培暦を作成した。また、品種特性や経営的メリットを周知した結果、H30年栽培面積は10haに拡大した。
- ・類似産地の調査結果を生産者とJAつくば市に提供し、販路拡大方法等について情報共有した。
- ・食味官能評価結果が生産意欲向上につながった。

●今後の展開

- ・高品質・安定生産技術確立に取り組み、栽培暦を改訂する。また、産地と連携して、実需者ニーズに応じた販売戦略を検討し、生産拡大を図る。